



TOKUYA TIMES

とくや
タイムズ自由民主党
豊橋市議団
個人版<http://ito-tokuya.com/tokuya>

伊藤 とくや

Winter, 2014-15, vol.31

新年度の予算編成の課題と改革 ● 本市の地方創生対策についての態勢 ● 健康で豊かに暮らせるまちづくり

健幸長寿都市“スマートウェルネスシティ”

31号発行についてのご挨拶

日本再興戦略改訂 2014 は、「3本の矢」によってもたらされた変化を一過性のものに終わらせず、経済の好循環を引き続き回転させていくものである。成長の成果「地域活性化／中堅・中小企業・小規模事業者の革新」と、「地域の経済構造改革」といったかたちで全国波及することを目指している。

一方、GDP速報値は2期連続悪化。厳しい景気を考慮して、消費税8%から10%への引き上げを予定より18か月、平成29年4月1日へ先送りした。本市の国民健康保険、子ども子育て支援などの社会保障の財源確保、また医療・介護、年金などについても、多大なる影響が予想される。

そこで、12月議会では大きく3つ

■ 新年度の予算編成の課題と改革

■ 本市の地方創生対策についての態勢

■ 健康で豊かに暮らせるまちづくりから

特に「スマートウェルネスシティ」について議論した。



Q 本市の地方創生対策について

1 回目、「まち・ひと・しごと創生法」への認識と対応について

2 回目、本市における「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定の考え方と、総合戦略と総合計画後期基本計画との関係性についてをポイントとし質問した。

伊藤とくやの意見 本市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、平成27年度中の策定が予定されており、後期基本計画の特に戦略計画の立案の中で、地方創生の理念や方針に合致した施策を絞り込み、まとめられるとのことであった。

私は9月議会一般質問にて、人口減少社会においても成長する都市(まち)づくりには何が重要なのか、人口減少社会を迎えた本市を健全な状態で次世代に引き渡し、如何にして持続的な発展を遂げていくかについて「成長と子育て世代」「災害と都市計画」「公共施設の保全」そして「広域連携」の切り口から議論させていただいている・・・

伊藤とくやのおもい 本市の「まち・ひと・しごと創生戦略」が、今後の国の地方創生に関する施策の受け皿となり、それが即ち第5次総合計画に基づく本市のまちづくりの推進に繋がるよう、しっかりとした目標、明確な方向性が示されるよう取り組んでいただきたい。

【※】スクラップ&ビルド 行政機構などで、非能率的な設備や組織を廃棄して、新しい能率的なものに立て直すこと。

Q 新年度の予算編成について

1 回目、「平成27年度予算における重点施策と留意事項」、「中長期の財政見通し」、「消費税率引き上げ先送りによる影響と対応」について

2 回目、GDP下方修正、円安など本市の税収見通しへの認識、事業の一層のスリム化(身を切る改革)が求められていると思うが、【※】スクラップへの認識と対応について、消費税増税を当て込んでいた福祉など社会保障はどうなるのかについて。

Q 消費税率引き上げ延期による社会保障など本市における具体的な影響額

A 豊橋市 財務部長

本市における具体的な影響額・・・地方消費税交付金は今年度の予算をベースに試算すると約4億円の減となり、子ども・子育て支援新制度の関連では、新年度に幼稚園1園が施設型給付に移行することで約4千万円、児童クラブの増により約8千万円の事業費が増加する見込みである。

また、国民健康保険においては、保険者支援制度として保険税額の一定割合を公費で負担することとなり、影響額は約3.5億円、介護保険は、低所得者の保険料軽減措置として約2.4億円の影響が生じるものと見込んでいる。

伊藤とくやの意見 アベノミクスは道半ばで、地方に経済の好循環が生まれるまでには、地方創生への積極的な取組みと、もう少しの時間(1年半)が必要。

こうした状況下で、将来を見据えながら新しい事業の創設を図るとともに、合わせて不要不急の事業はスクラップも進める。この取り組みで財政規律の保持に努めるといった考え方は大いに評価したい。

また、消費税率引き上げの延期で、財源が不足し社会保障サービスが後退するようないことがあってはならず、佐原市長は既に中核市市長会会長名で、国に対して、消費税に代わる財源の確保を求めるコメントを出している。引き続き強く声をあげていただきたい。

伊藤とくやのおもい 平成27年度予算編成については、地方創生も含めた本市まちづくりの推進、持続可能な財政運営への取組みをお願いしたい。

伊藤とくやの意見 平成 27 年度予算編成に盛り込まれている重点化事項の 2 番目には、昨年は 4 番目に書かれていた『市民が健やかに暮らすための保険・医療・福祉の推進』が繰り上げられている。これは一層施策の重要度が増したためと認識している。

なぜなら健康を維持することは、個人と社会の双方に「生きがい」「豊かな生活」「医療費の抑制」といったメリットを与えるからである。

■ 健康の健、健やかに幸せと書いて「**健幸**」と読む熟語をご紹介します。「**健幸**」・・・「個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心安全で豊かな生活を営むことのできること」、英語に置き換えると **Wellness**(ウエルネス)である。

■ 新潟市、岐阜市などの 46 市の首長が参加する**スマートウエルネスシティ首長研究会**は、少子高齢化・人口減少が進んでも地域住民が健康で幸せであるためには、より多くの市民が健康づくりを実践・継続できるしくみづくりが必要であるとして **Smart Wellness City・健幸づくりは「まちづくりから**とした理念に基づくまちづくりを提唱している。

■ 本市の健康長寿社会に関する状況を確認すると、厚生労働省が関与している統計 “健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究”健康寿命の都道府県ランキングによれば、愛知県は男性においては 1 位、女性は 3 位とトップクラスの健康長寿のまちである。

ところが、**合併症**の病気になる糖尿病について調べると、糖尿病患者が全国でも**抜きん出ている**のが愛知県であり、そのなかでも糖尿病予備軍が平成 20 年から 22 年まで県下 1 位であったのが豊橋市であるという不名誉な側面もある。

本市には、健康長寿のまちという素晴らしい地域特性を更に伸ばすまちづくりの施策が求められているのではないか。

そこで、

Q 健康で豊かに暮らせるまちづくりについて

「今までの取り組みと課題」「これからの市民の健康づくり」「**健幸長寿都市スマートウエルネスシティの基本理念への認識**」本市の考えを伺う。

【※詳しい回答についてはHPをご覧ください😊】

健康寿命のベスト 5 およびワースト 5

男性健康寿命上位 5 県	女性健康寿命上位 5 県	順位	男性健康寿命下位 5 県	女性健康寿命下位 5 県
愛知県	静岡県	1 位	青森県	滋賀県
静岡県	群馬県	2 位	高知県	広島県
千葉県	愛知県	3 位	長崎県	大阪府
茨城県	沖縄県	4 位	大阪府	福岡県
山梨県	栃木県	5 位	岩手県	徳島県

※ 厚生労働省が関与している統計、厚生労働科学研究費補助金“健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究”による、健康寿命の都道府県ランキング。

あとがき 平均寿命のベスト 1 は男女共に長野県ですが、愛知県は健康寿命について男性 1 位、女性 3 位。静岡県は女性 1 位、男性 2 位です。静岡県は理由を「お茶を良く飲むから、カテキンは健康に良い。」とコメントしていますが、私は何と云っても気候が温暖で水も空気も良く地場の食品も豊富だからだと思います。これらをもっと定住人口を増やすためのシティブロモーションとして活用すべきではないでしょうか。

Q 超高齢・人口減少によって生じる社会課題を、自治体みずから克服するために、「健幸」をまちづくりの基本とし、最新の科学技術等に基づく持続可能な新しい都市モデルである健幸長寿都市スマートウエルネスシティの基本理念への認識と、首長研究会への加盟について

A 豊橋市 健康部長 基本理念への認識について、現在全国の各自治体では、少子高齢化、社会保障費の増加といった課題を抱える中で、市民の健康づくりから、安心して暮らせ、活力あるまちづくりを目指す積極的な取り組みが進められている。

本市においても、健診や疾病予防を中心とした公衆衛生の取り組みに加え、多くの市民が健康に関心を持ち、運動する楽しさを伝える健康づくり事業に積極的に取り組んでいる。こうした中で、一人一人が健康で生きがいを持ち、安全・安心で豊かな生活を営むため、「健幸」を目指すスマートウエルネスの基本理念は、本市の取り組みに合致するものと認識している。

スマートウエルネスシティ首長研究会への加盟について、この研究会は「健幸」をこれからのまちづくりの施策の中核として、少子高齢化・人口減少社会によって生じるさまざまな問題を克服するために、先進的な都市が連携して、健康から始まるまちづくり施策の研究や、情報の共有化を進めている会である。こうしたことは、市民一人一人の健康から、地域コミュニティの活性化等につながる「健康なまちづくり」を進める本市の今後の施策の展開にも参考となるため、研究会の参加について検討していきたい。

伊藤とくやのおもい

■ スマートウエルネスシティ首長研究会は、今後本市の健康なまちづくり施策展開の参考となるもののため、研究会への参加を検討したい考えであった。なぜなら健康を維持することは、個人と社会の双方に「生きがい」「豊かな生活」「医療費の抑制」といったメリットをもたらすからである。

■ 少子高齢化・人口減少社会においては、高齢になっても地域で元気に暮らせること、それ自体が「社会貢献」である。こうした全国的な健幸都市づくりネットワークへの参加を通し、健康なまちづくりに向け

- 本市の恵まれた気候風土や地理的条件を活かす方策はあるか
- 本市の特性とも言える糖尿病対策の斬新なアイデアはないか
- 認知症対策の最前線はどうか
- 同時に観光立国・地域活性化なども同時に図ることができないか
- さらに市民を巻き込んだ運動をどう展開したらよいか等々・・・

もう一步先の取り組みを是非検討していただきたいと思う。

■ 地方創生の原動力は、市民一人ひとりの行動する力ではないか。すなわち、人口が減少し超高齢化が進む中、誰もが前向きに考え行動できる、それを支える健康なまちづくりへの取り組みがますます重要であり、そのための取り組みは、税収の増加が見込み難い中でもすぐに実施できるものも多いと思う。事業の**スクラップ&ビルド**における「ビルド」の有力な候補にもなりうるのではないか。そして、本市財政をより健康な方向へ向かわせるはずである。

■ スマートウエルネスシティは生活の新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらす社会の幅広い変革ライフ・イノベーションであるという思いから、この豊橋が日本一の健幸長寿都市となるよう、総合的な観点から取り組んでほしいと思うものであり、大いに期待する。😊😊😊

2 期 8 年 特別報告会のお知らせ

日付 平成 27 年 3 月 7 日(土)
 時間 10 時 30 分より
 会場 ポレロ吾妻家(松葉町三丁目)
お気軽にお越しください!



発行

伊藤とくや事務所
 豊橋市松葉町 3-68
 FAX : 0532-56-5521
 TEL : 0532-53-4556
bbito@mx1.tees.ne.jp
 携帯 : 090-3855-9696